

資料1 「輝く明けの明星、O Morning star ! How fair and bright」 略解

(讃美歌346番「たえにうるわしや」、原曲名: Wie schön leuchtet der Morgenstern)

作成 2024-06-17 岡本雅幸

1. マルティン ルター(1483-1546)

■ 1517年 宗教改革始まる。

ルターは、聖書を自国語で読めるように翻訳し、同時に「音楽は神が与えて下さった、最も美しく、また栄光を現わす贈物である」として、聖歌隊ばかりか会衆の誰もが礼拝で、また家庭でも讃美できるようにと、ドイツ語の讃美歌、コラール(*1)を創出しました。

(*1)コラールとは、ルター派教会にて全会衆によって歌われるための讃美歌を指します。現代では、これらの讃美歌の典型的な形式や、類似した性格をもつ作品をも含めて呼ぶことが多いです。

2. フィリップ ニコライ(1556-1608)

■ 1556年、ルター派の牧師の家庭に誕生。

■ 1575年、ルターが学んだエアフルト大学に入学、さらに1576年ルターと切り離すことのできぬヴィッテンベルクに移りました。後年、出身校たるヴィッテンベルク大学から神学博士の学位を授与さる。

■ 1596年、ヴェストファーレン州のウンナの牧師に就任。

■ 1597年7月から翌1598年1月にかけてペスト禍(*2)がウンナを襲い、約1300名もの死者を出すという惨禍に見舞われました。

ニコライの住んでいた牧師館から見おろせた教会墓地では、日によっては30人もの埋葬が行われ、市の家々は、家族や近親を失った人々の歎きの声でみたされました。

(*2)このペスト禍は、第二のパンデミック(14～17世紀)と言われます。元末期の中国からシルクロード経由で中央アジア、地中海、全ヨーロッパへと広がったとされ、「黒死病」と称されます。1894年、コッホと北里柴三郎による共同発見によりペストの病原体が突き止められる迄は、原因諸説は宗教的偏見や迷信を前提にしたものが殆どでした。

ニコライ自身もペストに罹患したことで、生きている者すべてに訪れる最期を意識させる有名な言葉、「メント・モリ」(ラテン語で自分がいつか必ず死ぬことを忘れるな)「死を想え」という意味)を意識したことでしょう。

NHKで放映された「映像の世紀 バタフライエフェクト ～世界を変えた“愚か者”フラーとジョブズ」

<https://www.nhk.jp/p/butterfly/ts/9N81M92LXV/episode/te/6XWRL58JNK/>

の中で紹介されたスティーブ・ジョブズによる2005年スタンフォード大学卒業式でのスピーチが、現代のメント・モリの解釈において重要なものとなっているとのことでした。その全文は、下記に掲載されています。

<https://www.nikkei.com/article/DGXZZO35455660Y1A001C1000000/>

※「ハングリーであれ。愚か者であれ」 ジョブズ氏スピーチ全訳(日本経済新聞)

現代は、メント・モリを「避けることのできない死という未来があるからこそ今この瞬間を大切に生きることができ

る」という意味で捉えています。しかし今日の新型コロナの世界的流行や諸情勢変化よりから 400 年以上も前に、メント・モリに対する究極的な答えが御言葉により与えられ、輝かしい歓喜の讃美が生まれたのです。

■ 1598 年、コラール「輝く明けの明星」の誕生

ペストが猛威を振るい続ける 1598 年、このコラールが書かれ、曲はヤーコブ・ダックゼルが 1537 年に作曲したものにニコライが手を加えました。

大塚野百合氏の『讃美歌と大作曲家たち 心を癒す調べの秘密』(創元社、1998 年 12 月 10 日第 1 版第 2 刷)に、歌詞誕生の経緯が次の様に紹介されています。

「あまりの苦しみに耐え切れなかった彼は、ある朝神に激しく迫って、この闇のなかに救いを見いだそうと祈り始めました。必死の祈りが朝から午後三時まで続いたとき、ついに彼は闇を貫く救い主の輝く姿を拝することができました。死臭ただよう牧師館の一室で彼は、「輝く明けの明星」であるイエスに呼び掛け、祝婚歌である詩篇四五篇に基づいて、花婿イエスと人間の魂の霊的結婚を歌う喜びの歌を書くことができたのです。」

<https://www.youtube.com/watch?v=W9DITNjo2Sg>

彼は、経歴こそ専門的な音楽者ではありませんが、全くの靈感により「コラールの女王」と呼ばれる不朽の名曲を生み出す働きに用いられたのです。

■ 1599 年 彼の瞑想録「永生の楽しき鏡」の序文に、讃美歌誕生の経緯を回顧してこう綴っています。

「キリストの血によって与えられた、壮厳なる永遠の生命についての信仰を想いめぐらすことよりほかに、麗わしく且つ楽しき業はなかった。このことを、日ねもす夜もすがら胸にやどし、聖書は、いかにこれを実証しているかをたずねた。そして、古の学者、聖アウグスティヌスの『神の都』をも読み、日ごとに瞑想を綴り合せて行った。噫(ああ)、感謝すべき！自分は心の傷を癒され、慰められ、力を得、真に足ることを知るに至った」。

※出典 津川主一「讃美歌作家の面影」、ヨルダン社、1970 年 7 月 10 日 3 版、217 頁

そして瞑想録「永生の楽しき鏡」の巻末に、コラール「輝く明けの明星」は、“コラールの王”と称せられる彼のもう一つの名曲「起きよ、夜は明けぬ(讃美歌 174 番)」と共に収録され、全ドイツで婚礼でも葬送でも愛唱され、数多の魂を慰め信仰を鼓舞していったのです。

また、多くの音楽史上著名な作曲者により、声楽作品やオルガン変奏曲・幻想曲等が生み出されました。

■ 1601 年

ドイツ最大の海港ハンブルクの聖カタリナ教会主席牧師に任じられ、ルーテル派の「柱石」と讃えられます。当時聖カタリナ教会には、ハンブルクで最も重要なパイプオルガンがあり、ここで演奏したオルガニストの一人が J.S.バッハです。

■ 1608 年

悪性の熱病のために急逝。

3. 30年戦争(1618-1648)

「最後で最大の宗教戦争」ともいわれ、ドイツ人口の 20%を含む 800 万人以上(三分の一とも言われます)が死亡した人類史上最も破壊的な紛争の一つです。

4. バッハ(1685-1750年)

1725年3月25日、ライプツィヒ聖トーマス教会に於ける「受胎告知の祝日」礼拝で、このコラールを基にしたコラールカンタータ第1番(BWV1)《輝く暁の明星のいと美わしきかな》が演奏され、それに引き続いて説教が為されています。

- ※コラールカンタータとは、コラールを主題とし、全体がそのコラールの旋律と歌詞で導かれる様式です。
- ※受胎告知と言えば、倉敷の大原美術館のエル・グレコの名画が思い起こされます。

このカンタータの冒頭、バッハはコラールの第一節をソプラノに歌わせ、他の声部と管絃樂を対位的に組み合わせ「音によって建てられた大聖堂」を出現させています。

<https://www.youtube.com/watch?v=LoP6iOQh5zI>

そして終曲(第6曲)では、殆ど原型のままのコラール第七節の四声同声付けに管絃樂器が重ねて奏され、全会衆を聖歌隊と一体となった讚美へと招くが如くです。

<https://www.youtube.com/watch?v=LoP6iOQh5zI> の 21:28 から奏されます。

多くのプロテスタントの讚美歌集に収録されたコラールの四声同声は、しばしばバッハのコラールカンタータの終曲合唱からとられています。

5. この讚美歌の“今”

今回取り上げた Ph.ニコライによる讚美歌「輝く明けの明星、Wie schön leuchtet der Morgenstern」は、ドイツバロック音楽に興味をお持ちの方々であればご存じかと思います。

我が国の讚美歌集では、讚美歌 346 番の他に、讚美歌 21_276 番、聖歌 121 番、教会讚美歌 57 番、古今聖歌集 324 番等に収録されていますが、残念なことに信徒の方々にはあまり知られていないようです。

その理由のひとつに、『教会讚美歌』(聖文舎讚美歌委員会、1974-12-1 初版)の序文に記された如く、

「日本では、百年前に宣教師たちによって福音が伝えられるとともに、讚美歌も伝えられた。しかしこれらの宣教師は主としてアメリカから来た人々であったこともあり、アメリカ、イギリスを中心にした讚美歌が翻訳され、それが日本の人々に親しまれてきた。昭和になって讚美歌がいくたびか改訂され、ドイツ等ヨーロッパの讚美歌がかなり加えられた。」

この明治以後の福音宣教のあり方の他に、コラール独特の雰囲気も理由としてありえるでしょう。また民族性の違い、国家の歴史とそこでキリスト教会が辿った歴史の違いなども関係するのかもしれませんが。

- ※ちなみにアメリカ大陸では 16 世紀頃までインディアン文明が続いていたとされ、イギリス人によるヴァージニア植民は 1607 年、メイフラワー号プリマス植民は 1620 年です。

しかし、この讚美歌は、夜深い刻限を意味する「暁(あかつき)」という言葉がピッタリの現代にあって、「輝く明けの明星である」(黙示録 22:16) 主イエスを指し示して、私たちに歓喜の讚美へと招いています。

以上